

## 職業実践専門課程等の基本情報について

学校名 仙台医療福祉専門学校	設置認可年月日 昭和56年3月31日	校長名 工藤 広一	所在地 〒 980-0021 (住所) 宮城県仙台市青葉区中央4-7-20 (電話) 022-217-8877																																
設置者名 学校法人北杜学園	設立認可年月日 昭和56年3月31日	代表者名 鈴木 一樹	所在地 〒 980-0021 (住所) 宮城県仙台市青葉区中央4-7-20 (電話) 022-217-8877																																
分野 商業実務	認定課程名 商業実務専門課程	認定学科名 医薬品総合学科	専門士認定年度 令和4(2022)年度	高度専門士認定年度 -	職業実践専門課程認定年度 令和3(2021)年度																														
学科の目的	学校教育法に基づき、職業人として必要な能力の育成を基本とし、商業実務関係の分野において活躍するための技能と教養を教授し、地域社会に貢献する人材を育成する。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	徹底した登録販売者試験対策を行っている。充実した授業カリキュラムだけでなく、実務実習先を100%学校が確保し、学校が提携するドラッグストアで安心して実務経験を積むことで、豊富な業務知識が身につく。1年間の実務実習を通して収入を得ながら、就職にも有利な現場実戦力が養われ、更に「登録販売者(店舗管理者)」としての条件を整えることができる。																																		
修業年限 2年	昼夜 昼間	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 ※単位時間、単位いずれかに記入 2,160 単位時間 単位	講義 1,050 単位時間 単位	演習 150 単位時間 単位	実習 960 単位時間 単位	実験 0 単位時間 単位	実技 0 単位時間 単位																												
生徒総定員 80人	生徒実員(A) 13人	留学生数(生徒実員の内数)(B) 0人	留学生割合(B/A) 0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>: 13</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>: 12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>: 12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>: 4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>: 100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>: 33</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>: 92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>: 0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td colspan="2"></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)  ■主な就職先、業界等  (令和4年度卒業生)  ドラッグストア、薬局、薬店、保険調剤薬局</p>							■卒業者数(C)	: 13	人	■就職希望者数(D)	: 12	人	■就職者数(E)	: 12	人	■地元就職者数(F)	: 4	人	■就職率(E/D)	: 100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	: 33	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	: 92	%	■進学者数	: 0	人	■その他			
■卒業者数(C)	: 13	人																																	
■就職希望者数(D)	: 12	人																																	
■就職者数(E)	: 12	人																																	
■地元就職者数(F)	: 4	人																																	
■就職率(E/D)	: 100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	: 33	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	: 92	%																																	
■進学者数	: 0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL																																		
当該学科のホームページURL <a href="https://sif.ac.jp/course/iyaku.html">https://sif.ac.jp/course/iyaku.html</a>																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A : 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,160 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>960 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>960 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>960 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B : 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	2,160 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	960 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	960 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	960 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	2,160 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	960 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	960 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	960 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に從事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に從事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>1人</td></tr> <tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>0人</td></tr> <tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>1人</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>0人</td></tr> <tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td></td><td>0人</td></tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に從事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に從事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計		0人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人							
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に從事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に從事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																	
計		0人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

仙台医療福祉専門学校では、関係業界等のニーズを踏まえた実践的かつ専門的な人材育成を図ることを目的として、(1)業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員、(2)専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者、(3)実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員といった外部委員と、内部委員(教育課程の編成の責任者・専任教員)とから編成される、教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会は、以下を踏まえた教育課程の編成に関する提言を行う。

- ①学生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向
- ②国又は地域の産業振興の方向性
- ③実務に関する知識、技術、技能などの専門的事項

教育課程編成委員会の提言は、校長のリーダーシップのもと、教務運営委員会を通じて、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫に活かすよう努めるものとする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長の諮問機関として以下の事項について審議し、提言を行う。

- ①授業科目的設定及び内容に関する事項
- ②カリキュラムの改善、充実に関する事項
- ③演習及び実習の内容に関する事項
- ④授業内容及び方法の改善、充実に関する事項
- ⑤演習及び実習の効果測定の評価基準に関する事項
- ⑥その他教育課程の編成に関する事項

校長は、教育課程編成委員会の議決及び提言を踏まえ、教務運営委員会を通じて、より実践的かつ専門的な教育課程の編成に努める。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
北村 哲治	一般社団法人 仙台市薬剤師会 会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
山田 潔	株式会社 マツモトキヨシ東日本販売 管理部兼店舗運営部 主査	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
佐々木 仁	仙台医療福祉専門学校 学科長(委員長)	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
佐々 順子	仙台医療福祉専門学校 主任	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年12月23日 15:30～17:00

第2回 令和5年2月13日 15:30～17:00

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に関する知識、技術、技能などの専門的事項について、委員の方々が有する知見に基づいた意見を聴取し、職業実践専門課程としてふさわしい授業科目の開設、または、授業内容・方法の改善・工夫等に活かしていく。

令和5年度に向けては、就職することが最終目標ではなく、入社(職)後にどのように仕事に対するモチベーションを維持するかが重要であることが委員会を通じて理解できた。特に2年目以降キャリア形成について、単純に店長候補を目指すことだけではなく、根幹として地域・医療福祉分野への貢献という意識が伴わなければ、進むべき方向がわからずに離職につながってしまう。また、新型コロナを取り巻く環境が刻々と変化(例:検査キットの取り扱いや保険制度)しているため、常に学習する姿勢が重要である。

離職防止については、新型コロナの影響により職員間のコミュニケーション(特に同期との横のつながり)が弱いことがわかっている。Webツールを活用しているが、Face to Faceによるコミュニケーションの重要性が改めて重要であるとの内容を踏まえ、2年次(特に登録販売者試験終了後)のHRにおいて、入職後のキャリアプランニング指導に活用していく。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校の教育の方針「実学的思考の重視に立って、医療・福祉分野における専門知識や技術を身につけたスペシャリストの育成を目指す」に基づき、ドラッグストア・調剤薬局等の目指す専門分野で見学や実習を行い、専門職業人として必要な組織の理解と登録販売者・調剤事務部門を中心とした業務を、実践的かつ専門的に学び、社会性のある医療従事者を目指す。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習開始前(1年次4月～6月)に企業より講師を招き、接客応対および企業理念について研修を行う。

実習中は期間内に教員が訪問し、学生に対して業務に取り組む姿勢等について指導を行う。

実習担当者(店長)より毎月規定勤務時間(80時間)のチェックと業務上の言動に問題があれば、隨時本校と企業間で情報交換を行い実習生の指導をする。

実習生に実習報告書(月報:勤務実績及び業務内容)を提出させ、問題があれば企業店舗統括者を介して改善・是正に協力してもらう。

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実務実習Ⅰ	ドラッグストアのスタッフとして主に一般用医薬品の販売業務を行う。その他、一般用医薬品の情報提供及び相談の補助業務、管理、貯蔵、陳列、広告に関する業務を行う。 (1年次7月～9月実施)	株式会社 マツモトキヨシ東日本販売、株式会社 ツルハ、株式会社 ヤマザワ薬品、株式会社 薬王堂
実務実習Ⅱ	ドラッグストアのスタッフとして主に一般用医薬品の販売業務を行う。その他、一般用医薬品の情報提供及び相談の補助業務、管理、貯蔵、陳列、広告に関する業務を行う。 (1年次10月～12月実施)	株式会社 マツモトキヨシ東日本販売、株式会社 ツルハ、株式会社 ヤマザワ薬品、株式会社 薬王堂
実務実習Ⅲ	ドラッグストアのスタッフとして主に一般用医薬品の販売業務を行う。その他、一般用医薬品の情報提供及び相談の補助業務、管理、貯蔵、陳列、広告に関する業務を行う。 (1年次1月～3月実施)	株式会社 マツモトキヨシ東日本販売、株式会社 ツルハ、株式会社 ヤマザワ薬品、株式会社 薬王堂
実務実習Ⅳ	ドラッグストアのスタッフとして主に一般用医薬品の販売業務を行う。その他、一般用医薬品の情報提供及び相談の補助業務、管理、貯蔵、陳列、広告に関する業務を行う。 (2年次4月～6月実施)	株式会社 マツモトキヨシ東日本販売、株式会社 ツルハ、株式会社 ヤマザワ薬品、株式会社 薬王堂

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

\*研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

仙台医療福祉専門学校では、教員の更なる資質及び指導力の向上を図ることを目的として、「教員研修及び研究に関する規程」に基づき、計画的な研修を実施する。研修は以下の2つに大別される。

①学内研修 企業等から講師を招いた教員研修会や知識、技術、技能等を習得するための教材等の補助等、業務遂行上必要となる知識、技術、技能等を習得するために学内で実施する研修

②学外研修 職能団体、検定等を主催する協会等が開催する研修会及び研究会等への参加など、業務遂行上必要となる知識、技術、技能等を習得するために学外で実施する研修

これら研修を通じて、教職員は、必要な知識、技術の向上を図るとともに、新たな業務上の要請に応えるため自ら能力開発に努める。

#### (2)研修等の実績

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	幼児安全法短期講習	連携企業等:	宮城県赤十字社宮城県支部
------	-----------	--------	--------------

期間:	令和4年9月8日(金)	対象:	学科教員
-----	-------------	-----	------

内容	「応急処置」の授業運営において、小児・乳児への救命処置や応急手当、その他傷病に対する応急手当の知識技能を習得するため参加。
----	---

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	金融教育セミナー	連携企業等:	株式会社PKコンサルティング
------	----------	--------	----------------

期間:	令和4年8月24日(水)	対象:	全教員
-----	--------------	-----	-----

内容	高校の必修科目として「金融教育」が追加となっており、様々なコンテンツを通じて、金融リテラシーに触れる機会が増えていることを鑑み、教員自身も基本的な金融の知識を身に付けておくことが必要と考え、本研修の実施となった。具体的には、お金の価値・流れ、投資のリスク・リターン等金融の基本的な知識を修得した。
----	--

#### (3)研修等の計画

##### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本薬業専門学校連絡協議会	連携企業等:	日本チェーンドラッグ協会
------	---------------	--------	--------------

期間:	令和6年3月	対象:	学科教員
-----	--------	-----	------

内容	ドラッグストア業界での今後の取り組み方について
----	-------------------------

##### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和5年度ICTセミナー	連携企業等:	仙台青葉学院短期大学
------	--------------	--------	------------

期間:	令和5年9月15日(金)	対象:	学科教員
-----	--------------	-----	------

内容	Teamsの授業での活用について
----	------------------

### 4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1)学校関係者評価の基本方針

自己点検の評価結果について、その客観性・透明性を高めること、学校と関係する方の理解促進や連携協力により、教育活動、学校運営に係るご助言等を行っていただき、これらの改善を図ろうとするものである。

#### (2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) 2学校における職業教育の特色は何か 3社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 5各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2)学校運営	1目的等に沿った運営方針が策定されているか 2事業計画に沿った運営方針が策定されているか 3運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 4人事、給与に関する制度は整備されているか 5教務・財務等の組織設備など意識決定システムは整備されているか 6業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7教育活動に関する情報公開が適切になされているか 8情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	1教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 4キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 5関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 6関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか 7授業評価の実施・評価体制はあるか 8職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか 9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 10資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 11人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 12関連分野における業界との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか 13関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 14職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	1就職率の向上が図られているか 2資格取得率の向上が図られているか 3退学率の低減が図られているか 4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	1進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2学生相談に関する体制は整備されているか 3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5課外活動に対する支援体制は整備されているか 6学生の生活環境への支援は行われているか 7保護者と適切に連携しているか 8卒業生への支援体制はあるか 9社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 10高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	1学生募集活動は、適正に行われているか 2学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 3学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3財務について会計監査が適正に行われているか 4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	1法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか 3自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 4自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	1留学生の受入れについて戦略を持って国際交流を行っているか 2受入れにおいて適切な手続き等がとられているか 3学習成果が評価される取組を行っているか 4学内で適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等から参画した委員の意見は、学生により良い教育と環境を継続的に提供し、現場で求められる質の高い専門職業人の養成に直結するので、指摘のあった項目については、学科会、教務コンプライアンス委員会等で検討する材料としている。

今年度開催の委員会において、例年意見・提言を頂いていた非常勤講師に対しての授業アンケートを実施する。常勤職員のみで実施していたアンケートに非常勤講師も加わることにより、より効果的な授業アプローチが創造され、学生に対し充実した授業内容を提供することが期待される。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所 属	任期	種別
戸上 謙一	有限会社 ファーマシーすず 統括本部 統括部長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	企業等委員
北村 哲治	一般社団法人 仙台市薬剤師会 会長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	業界団体委員
菅澤 昌也	介護老人保健施設 エバーグリーン・イズミ 施設長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	正木守安 員 卒業生
小泉 敦保	株式会社 バイタルケア 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和6年3月 31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [https://sif.ac.jp/assets/pdf/sif\\_school\\_hyouka\\_r4.pdf](https://sif.ac.jp/assets/pdf/sif_school_hyouka_r4.pdf)

公表時期: 令和5年6月末日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

仙台医療福祉専門学校では、専修学校の社会的使命と公共性に鑑み、学校ホームページをはじめとして、広く周知を図ることができる方法によって、積極的な情報提供に努める。情報提供を通じて広く社会からのチェックと評価を受け、これをフィードバックして、教育活動その他学校運営の改善に活用する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標
(2)各学科等の教育	授業風景紹介、取得資格・検定、卒業生進路
(3)教職員	担当科目教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践的実習紹介、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスカレンダー紹介
(6)学生の生活支援	Q & A(入学編、学校編、学習編、就職編)、学生相談室
(7)学生納付金・修学支援	学納金、各種奨学金、学費減免制度の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生対象学科の紹介
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://sif.ac.jp/>

公表時期: 令和5年4月1日

**授業科目等の概要**

商業実務専門課程 医薬品総合学科										企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	
								講義	演習			
1 ○			パソコン演習 I	文書処理ソフト（Word）を使い正しいタイピング及びビジネス文書の理論と作成演習を行う。	1 通	60	4	○		○	○	
2 ○			パソコン演習 II	前期はMicrosoft PowerPoint2016の基本機能を学習して発表用スライドを作成する。後期はMicrosoft Excel2016の基本機能を学習する。	2 通	60	4	○		○	○	
3 ○			サービス接遇	目標検定取得に向け、検定範囲の学習を進めながら、相手に満足してもらうサービス接遇の具体的な考え方と言動を学習する。	1 通	60	4	○		○	○	
4 ○			一般教養 I	社会人に必要な知識の習得。文化芸術や社会保障などに触れる機会をつくり教養を深める。	1 通	60	4	○		○	○	
5 ○			一般教養 II	社会人に必要な知識の習得。文化芸術や社会保障などに触れる機会をつくり教養を深める。	2 通	60	4	○		○	○	
6 ○			手話	手話による学習を通して、音声無しに目で情報を受け取る力を養い、また、それを活かした接客時の対応を学ぶ。	2 後	30	2	○		○	○	

7	○	医学基礎	体の構造と働きを学ぶ。また、各器官系とその役割を習得する。	1 通	60	4	○		○		○
8	○	薬理学	医療従事者、薬の専門家として薬物治療における有効性・安全性を考慮して仕事をしていくための基礎知識を習得する。	1 通	60	4	○		○		○
9	○	登録販売者 I	登録販売者試験に直結する手引きを全て学び、試験対策練習問題を行う。登録販売者試験合格対策のため、練習問題・模擬試験等を実施・解説をする。	1 通	150	10	○		○		○
10	○	登録販売者 II	登録販売者試験に直結する手引きを全て学び、試験対策練習問題を行う。	2 前	90	6	○	△	○		○
11	○	接客応対	「ドラッグストア」についての商品知識・接客方法などを学ぶ。	1 通	45	3	○		○		○
12	○	漢方養成指導士初級講座	漢方の基礎理論を体系的に学ぶ。また、現代医学とは異なる人体や病気のとらえかたを学ぶ。漢方理論をベースに食事、運動、休養、心の持ち方、環境における養生など生活に活かせる智慧を学ぶ。	1 通	30	2	○		○		○
13	○	医療保険制度	処方箋による調剤にて必要な保険の知識と、医療用医薬品の算定について等を、テキストや作成したレジュメを基に講義、演習する。	2 通	30	2	○		○		○

14	○	調剤請求事務	調剤薬局業務に必要な知識の習得と、算定の基礎から調剤請求事務の流れを理解する。	2 通	150	10	○	△		○	○	
15	○	一般用医薬品	医薬品分類別に、作用効果、副作用、販売時の注意点等を学ぶ。配布プリントにて対応。	2 後	30	2	○			○	○	
16	○	疾病医学	医学基礎の解剖と生理学を復習しながら各器官系の主要な病気を学ぶ。	2 通	60	4	○			○	○	
17	○	栄養学	栄養の基本と損失を防ぎ価値を高める調理法を学ぶ。健康寿命延伸の為、免疫力促進・疾病予防になるバランス良好な食生活について学ぶ。フィトケミカル・サプリメントの役割と利用法を学ぶ。	2 後	30	2	○			○	○	
18	○	POP演習	POP作成のための文字やレイアウトの基礎知識を学び、お客様に伝わりやすい作品となるような広告を作成する。	1 前	30	2		○		○	○	
19	○	応急処置	応急処置の基礎を学び、対応できる技術を身につける。	2 後	30	2	○	△		○	○	
20	○	基礎美容学	化粧品の知識・使用方法の講義と、検定対策問題集を用いて検定対策を行う。	2 通	30	2	○	△		○	○	

学年	単元	単元名	単元の内容	単元の実施時期	単元の実施時間	単元の実施回数	単元の評価		単元の評価基準	単元の評価結果
							評価基準	評価結果		
21	○	介護情報	介護保険制度の目的、概要を確認し、またその問題点を身近な問題点としてとらえ、考える。	2後	30	2	○		○	○
22	○	実習指導	レジュメに沿った講義と、必要な演習を行う。社会人としての基礎を身につけ、1年間の実務実習を円滑に行えるようにする。	1前	15	1	○ △		○	○
23	○	実務実習Ⅰ	ドラッグストアのインターンシップとして、7月～9月の各月80時間の実務実習を行う。毎月度の実務実習報告書（月報）を提出する。	1前	240	8			○	○ ○ ○
24	○	実務実習Ⅱ	ドラッグストアのインターンシップとして、10月～12月の各月80時間の実務実習を行う。毎月度の実務実習報告書（月報）を提出する。	1後	240	8			○	○ ○ ○
25	○	実務実習Ⅲ	ドラッグストアのインターンシップとして、1月～3月の各月80時間の実務実習を行う。毎月度の実務実習報告書（月報）を提出する。	1後	240	8			○	○ ○ ○
26	○	実務実習Ⅳ	ドラッグストアのインターンシップとして、4月～6月の各月80時間の実務実習を行う。毎月度の実務実習報告書（月報）を提出する。	2前	240	8			○	○ ○ ○

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【成績評価】</b></p> <p>1. 授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等総合的に勘案して行う。ただし、各教科目中、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目についての評価を受けることができない。</p> <p>2. 試験は、定期試験、追試験、再試験とする。追試験は、受験資格のある者が試験当日やむを得ない理由で欠席した場合実施される。再試験は、科目的評価が合格点に達しない場合、本人の願出を受け、許可した場合に実施する。</p> <p>3. 各科目的五段階評定は絶対評価とし、不合格のみを「1」とする。科目的五段階評定は次の基準による。5は85～100、4は70～84、3は50～69、2は40～49、1は0～39とする。</p> <p>4. 総合評価は評定平均値を基準に次の五段階とする。Aは評定平均値4.0～5.0、Bは評定平均値3.5～3.9、Cは評定平均値3.0～3.4、Dは評定平均値2.5～2.9、Eは評定平均値1.0～2.4とする。</p> <p><b>【課程修了の認定】</b></p> <p>1. 上記、成績評価に基づいて、校長は課程修了の認定を行う。</p> <p>2. 所定の修業年限以上在学し、課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。授業科目的成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等総合的に勘案して行う。</p>	1学年の学期区分	前・後期
<p>各授業科目的授業計画（シラバス）に従い履修する。</p> <p>履修方法：履修認定は、各授業科目的授業時間数を履修し、成績評価において合格の判定を受けなければならない。</p>	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。